

トビタテ！ 留学 JAPAN 日本代表プログラム

～ 背景、ねらい、進捗状況 ～

2015年10月25日

文部科学省 官民協働海外留学創出プロジェクトチーム

町田大輔



本日の話の構成

「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」の

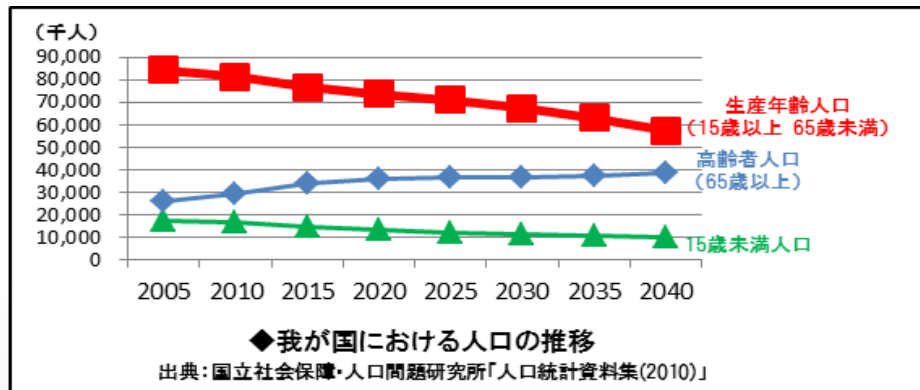
1. 背景

2. ねらい・特徴

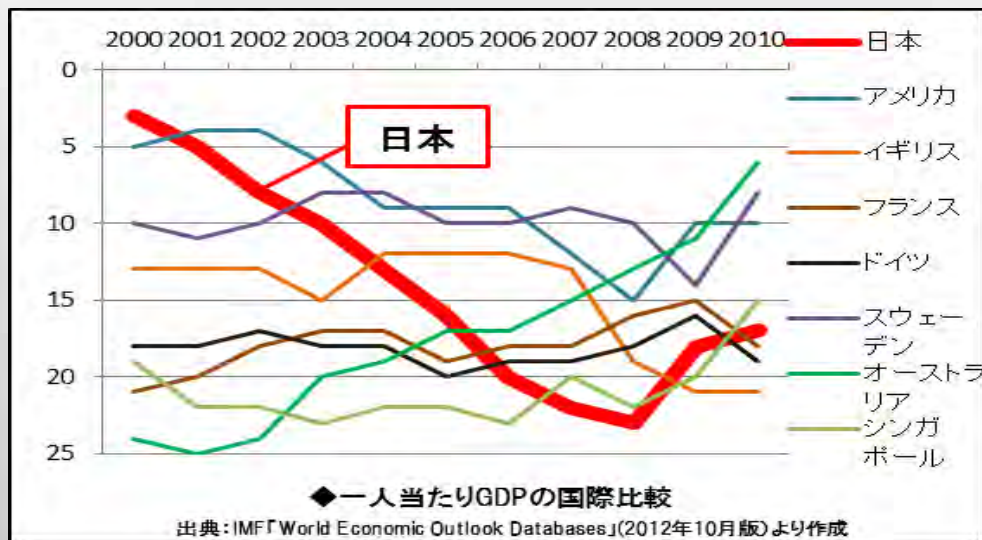
3. 進捗状況

このままだと日本の国力は大きく低下

1. 少子化の急激な進行により、生産年齢人口が大きく減少。



2. 一人当たりGDPが2000年の3位から大きく後退。



社会・経済のグローバル化への対応が急務

1. 日本企業は、アジアを中心に海外進出が加速

2001年→2012年 **アジア**：6,345社→**15,234社**
 北米：2,596社→3,216社
 欧州：2,147社→2,834社
 中南米：738社→1,205社

2. 「グローバル化を推進する国内人材の確保・育成」が課題

74.1%の企業が「グローバル化を推進する国内人材の確保・育成」を課題と認識
 (経済産業省「グローバル人材育成に関するアンケート調査」(2010年3月))

とるべき方策

- 個人の可能性が最大限発揮されるよう、一人一人の人材力を強化することが必要。
- 特に、世界で戦えるグローバル人材の育成が日本の成長の鍵を握る。

グローバル人材とは

ーグローバル人材育成推進会議「審議のまとめ」(2012年6月)ー

★ グローバル人材の要素

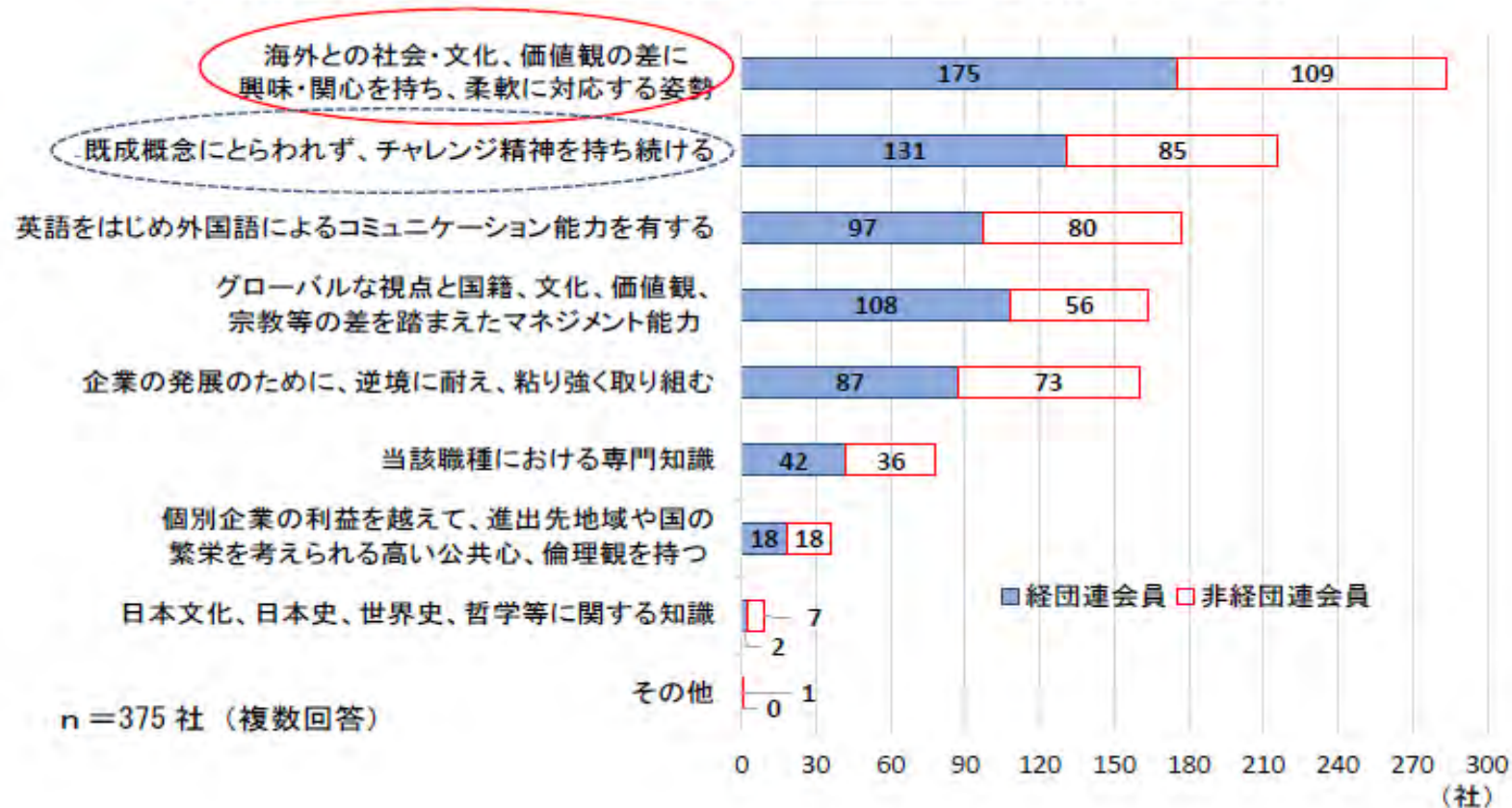
- 要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力
- 要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
- 要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

★グローバル人材を含むこれからの中核人材に求められる要素

- 幅広い教養と深い専門性
- 課題発見・解決能力
- チームワークと(異質な者の集団をまとめる)リーダーシップ
- 公共性・倫理観
- メディア・リテラシー
等

グローバル事業で活躍する人材に求められる資質、知識・能力

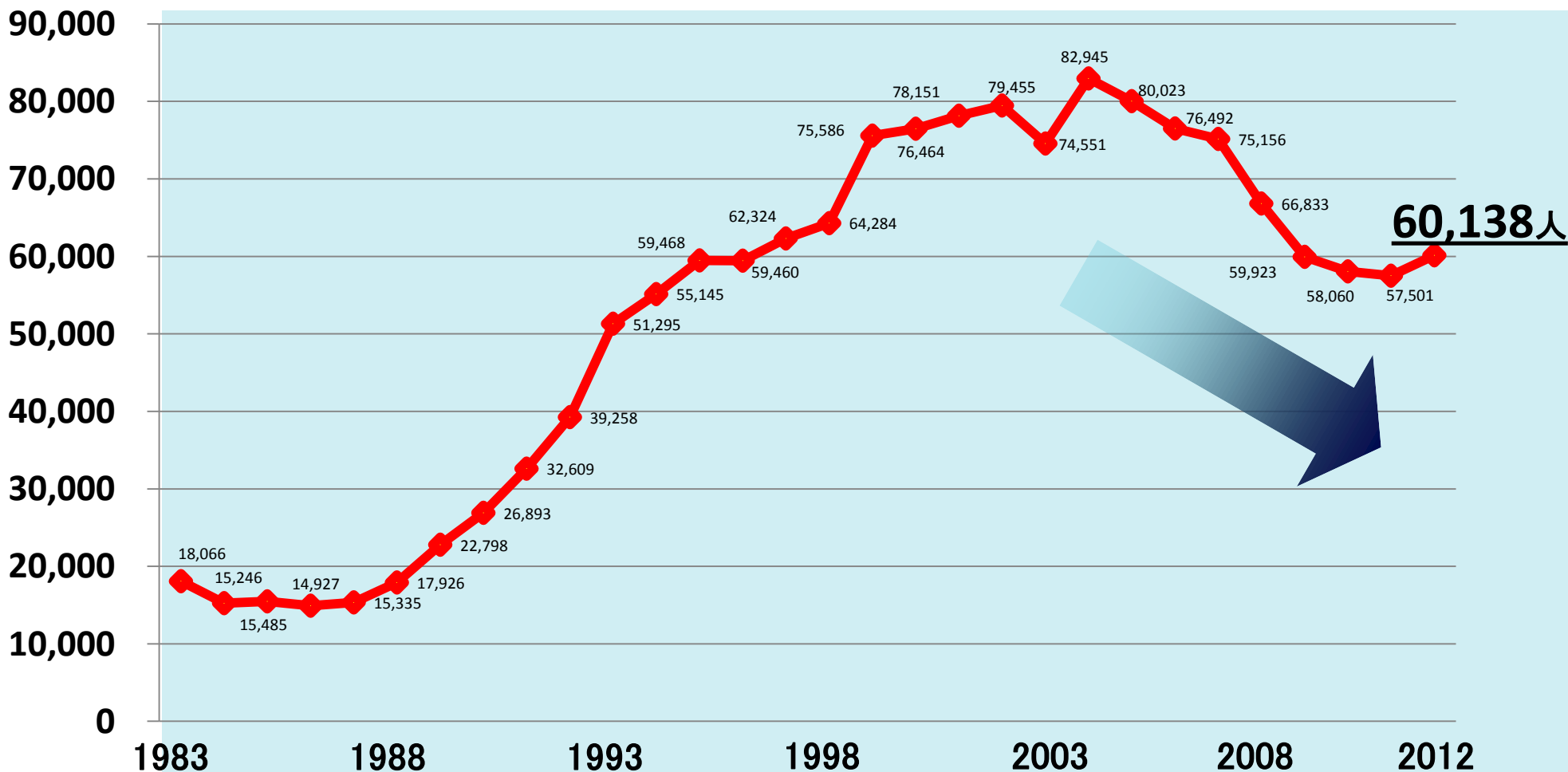
【図表1-6】 グローバル事業で活躍する人材に求める素質、知識・能力





日本人留学生数の推移

ピークの2004年から約30%の減少



出典: OECD、IIE、ユネスコ文化統計年鑑等

日本人の海外留学の減少と阻害要因等について(1)

- 日本人学生の留学に関する主な障害として、①就職、②経済、③大学の体制に関することが挙げられている。

		件数	比率 (87大学中)
①就職 →	帰国後、留年する可能性が大きい	59	67.8%
②経済 →	経済的問題で断念するが多い	42	48.3%
③体制 →	帰国後の単位認定が困難	32	36.8%
	助言教職員の不足	23	26.4%
	大学全体としてのバックアップ体制が不備	21	24.1%
	先方の受け入れ大学の情報が少ない	9	10.3%
④周囲の理解 →	両親、家族の理解が得られない	7	8.0%
	指導教員の理解が得られない	3	3.4%
	その他	27	31.0%

※国立大学協会国際交流委員会留学制度の改善に関するワーキング・グループが、各国立大学に対して留学制度の改善に関するアンケートを実施。

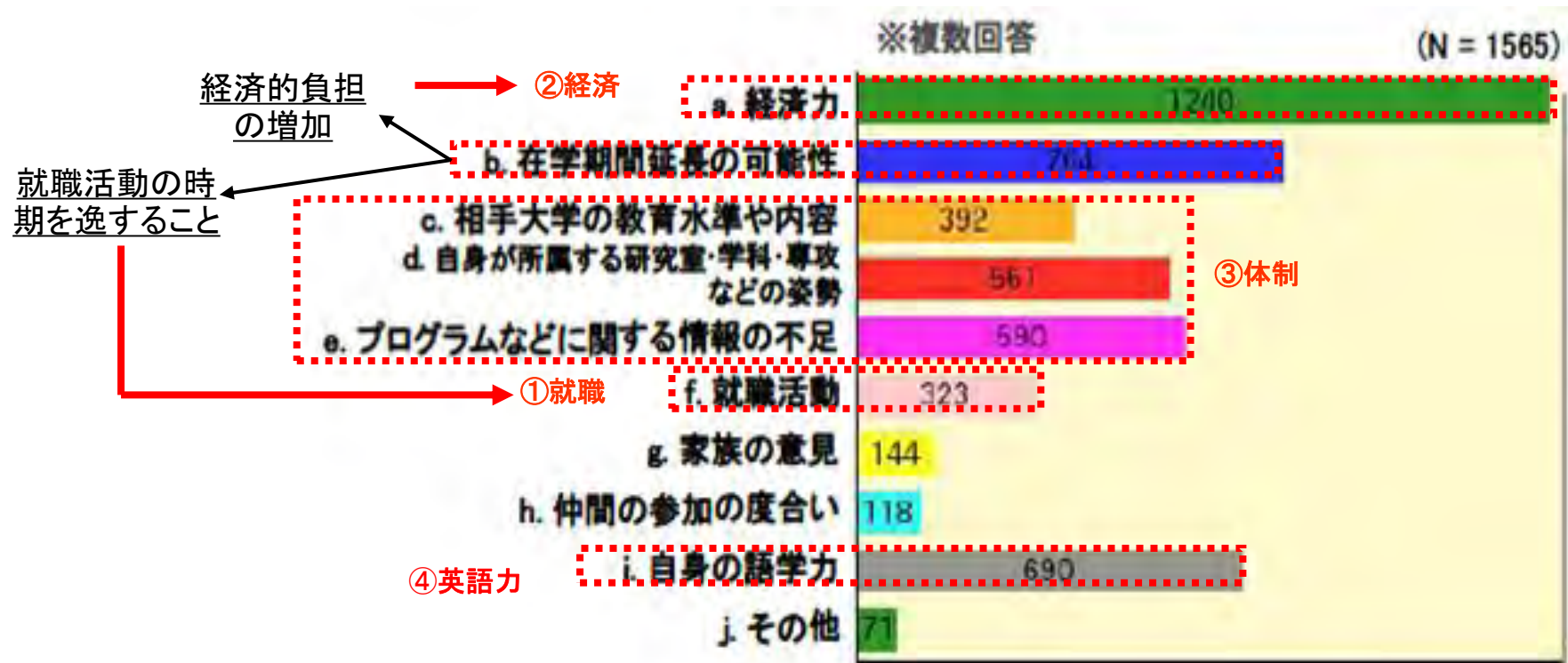
※本調査項目には87大学が回答。

※平成19年1月

日本人の海外留学の減少と阻害要因等について(2)

- 東京大学の学生を対象とした調査等においても、これらが障害となっていることが裏付けられている。

○海外留学を見送る要因



※「東京大学国際化白書」(2009年3月・東京大学)より

政府として、日本人の海外留学促進のため、**企業、大学等と協力して取り組みます。**

○日本再興戦略(平成25年6月14日閣議決定)

一. 日本産業再興プラン 2. 雇用制度改革・人材力の強化

⑦グローバル化等に対応する人材力の強化

世界に勝てる真のグローバル人材を育てるため、「教育再生実行会議」の提言を踏まえつつ、国際的な英語試験の活用、意欲と能力のある若者全員への留学機会の付与、及びグローバル化に対応した教育を牽引する学校群の形成を図ることにより、2020年までに日本人留学生を6万人(2010年)から12万人へ倍増させる。優秀な外国人留学生についても、2012年の14万人から2020年までに30万人に倍増させること(「留学生30万人計画」の実現)を目指す。
また、産業構造の変化に対応した学び直し等の機会を拡大する。

○意欲と能力のある若者全員への留学機会の付与

・ 高校・大学等における留学機会を、将来グローバルに活躍する意欲と能力のある若者全員に与えるため、留学生の経済的負担を軽減するための寄附促進、給付を含む官民が協力した新たな仕組みを創設する。

・ 就職・採用活動開始時期変更【再掲】を行うほか、多様な体験活動の促進に資する秋期入学に向けた環境整備を行う。

海外留学倍増に向けての支援

民間による支援

○企業ニーズを踏まえた留学に集中的に支援

- 新興国への留学を支援／理系学生等（高専生を含む。）の支援／将来、地域に貢献しようと考えている学生等の支援等のメニューを設定。
- 2020年までの7か年で総額200億円によりのべ10,000名程度の海外留学を支援。
- 事前/事後の研修やインターンシップの受入などにも企業の協力を得ることで、より社会で通用する人材育成を実現。

政府による支援

○国全体で必要となるグローバル人材の育成に関し、幅広く支援

- 奨学金として平成27年度予算額において 95億円（単年度分） を計上
給付支援： 大学等（H27） 22,270名
 高校等（H27） 1,600名

○質の高い留学を実現するための大学等の徹底した国際化を推進

- ① スーパーグローバル大学等事業（グローバルトップ大学等の形成支援）
【平成27年度予算額：87億円】
- ② 大学の世界展開力強化事業
【平成27年度予算額：24億円】
- ③ スーパーグローバルハイスクール事業
【平成27年度予算額：11億円】等

- ◆ 企業が評価する留学を明確化
- ◆ 学生等の留学に対するインセンティブを向上

- ◆ 大学等の改革と合わせて基盤的な幅広い支援を実施

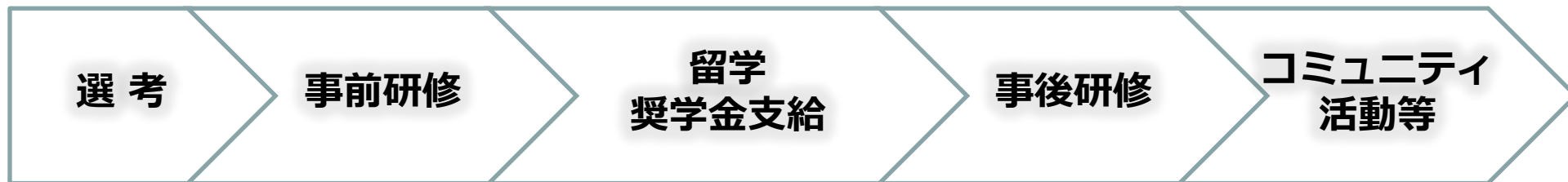


トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラムとは？



- ◆ **2020年までの7年間で約1万人**の学生等を「トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム」の派遣留学生として送り出す計画
- ◆ 支援企業と共にグローバル人材コミュニティを形成し**“産業界を中心に社会で求められる人材”**、“**世界で、又は世界を視野に入れて活躍できる人材**”の育成を目的とする
- ◆ 帰国後は海外体験の魅力を伝える**エヴァンジェリスト(伝道師)**として日本全体の留学機運を高めることに貢献することが期待される

プログラムの流れ





従来の派遣留学制度とは異なる 多方面でのサポート体制を整備

① “幅広い留学”
(海外体験) を対象

② 充実した奨学金等

③ 事前・事後研修
の提供

④ 派遣留学生
コミュニティ



① “幅広い留学”（海外体験）を対象



大学での修学に限らない 多様な実践活動を支援

本プログラムの支援対象

学生等が立案・作成した
留学計画を支援

“実践活動”を焦点とした留学
(海外インターン, 海外ボランティア活動
PBL, フィールドワーク等)

単位や学位認定の必要なし
(大学が学修活動と認めた活動)

トビタテ！一期生の活動例



起業してスティーブ・
ジョブスのような
イノベーターになる



スタンフォード大学で
研究&シリコン
バレーでインターン



少数民族と女性の
エンパワメントの
可能性を探る



バングラデシュで
国連インターン



② 充実した奨学金等

既存の国費プログラムより
充実した奨学金を採択者へ**給付**

国費留学プログラム

【月額】
月額6～10万円

【留学準備金】
無し

【授業料】
無し

日本代表プログラム

【月額】
月額12～20万円

【留学準備金】
往復渡航費の一部

【授業料】
留学期間に応じ、
授業料の一部を支給





③事前・事後研修の提供

留学に対する準備とフォローを行うことで、
留学における効果の最大化を図る

事前研修

**留学目的を事前に明確化し
留学の効果を最大化する**

- 将来のグローバルリーダーとしての動機づけ
- 留学目的・計画の明確化
- 成長と活躍に必要な自己理解
- 派遣留学生間の連帯感と使命感の醸成

事後研修

**留学で得たことを
次の行動(活動)に繋げる**

- 留学経験の振り返りと自己の軸の再確認
- リーダーに向けての意識転換
- 留学機運醸成に対する意義づけ
- 長期的な展望



④ 派遣留学生コミュニティ

**独自のコミュニティを形成し、
種々の交流機会を創出する**





基本となる4コース

留学の裾野を拡げるために**多様なコース**を準備

○留学期間：

- ・ 28日以上2年以内（3ヶ月以上推奨）の計画
（1年以上の者は全体の1割程度を予定）

**理系、複合・融合系
人材コース**

新興国コース

**世界トップレベル
大学等コース**

多様性人材コース



日本再興戦略や産業界のニーズに合った
理工系分野における留学を支援。

先端領域における研究等特徴のある取組を支援。

(ex.)学修、研究開発、インターンシップ、フィールドワーク

特に、環境・エネルギー分野、ライフサイエンス分野、情報通信技術分野、農林水産分野、ものづくり分野において新産業創出につながるような取組や活動を行う留学を支援します。

※理系、複合・融合系分野で新興国、世界トップレベル大学等に留学するプランはこのコースで応募。



今後成長が期待される新興国（アジア等）への留学を支援。

(ex.)新興国においてビジネスを視野にした学修、研究、インターンシップ、フィールドワーク等

<想定される国、地域（例）>

東南アジア（ASEAN）諸国、南アジア（SAARC）諸国、中東諸国、アフリカ諸国、中南米諸国等

※人文・社会科学系分野が対象。



世界トップレベル大学等コース

世界大学ランキングで上位100位以内に位置する等、
諸外国におけるトップレベルの大学などで、
世界中から集まった優秀な学生とせめぎあいながら、
高度な教養や専門を身につけることを目的とした留学を支援。

(ex.)学修、研究、インターンシップ、フィールドワーク等

※人文・社会系分野が対象。



各々の分野において、今後活躍が期待できる人材が行う留学を支援。

[想定される人材例]

- **スポーツ、芸術、政治、行政、教育、メディア、観光、ファッション、日本文化（古典芸能、和食等）等の多様な分野で活躍が期待される人材**
- **起業や国際協力等を目指して活動をしている人材**
- **復興支援活動をしている人材**



地域人材コース

地域のグローバル化を促進するため、地域の活性化に貢献するリーダー候補を育成

・体制:

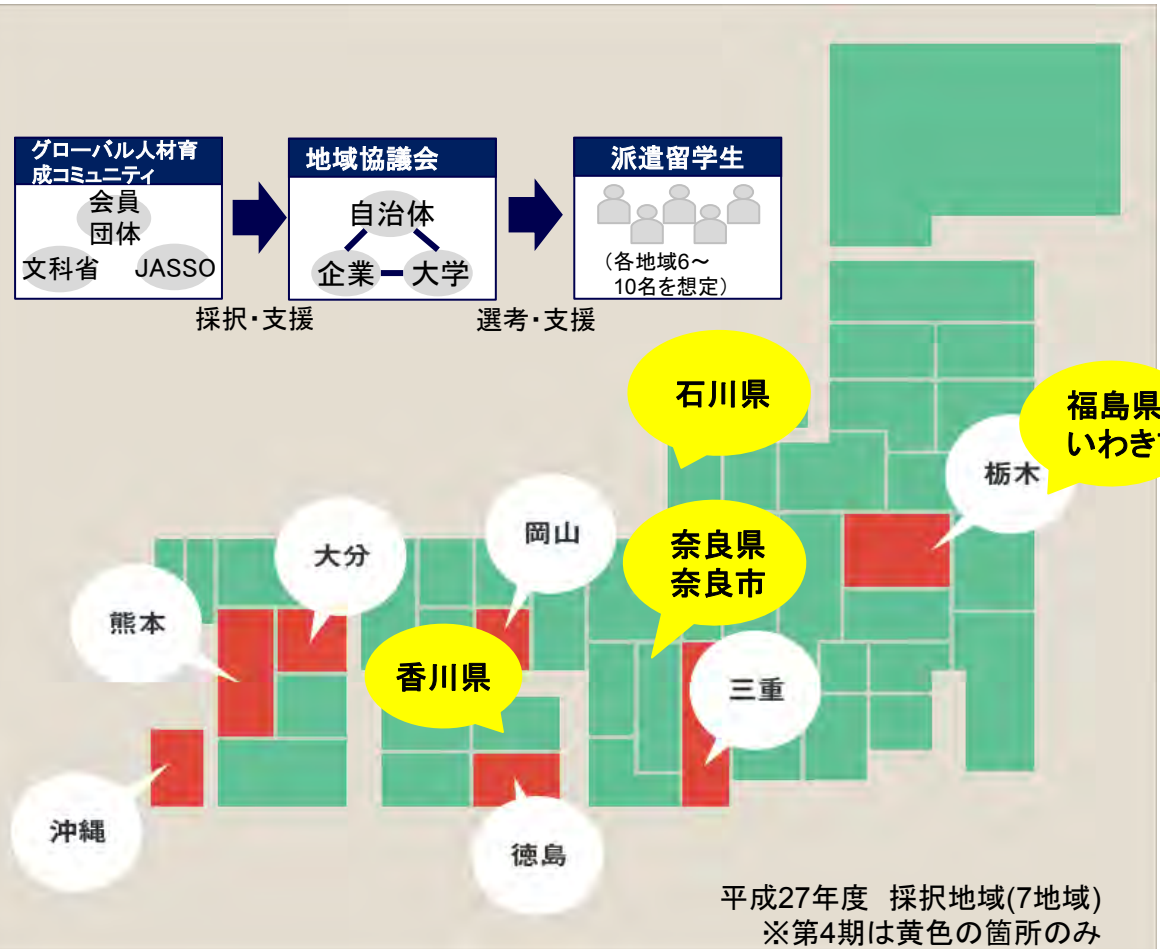
各地域の企業、地方公共団体、教育機関等が連携し、地域の活性化に資する独自のテーマを設定。それに即した海外留学及び地元企業でのインターンシップを組み合わせたプログラム設計

・学生の選考:

派遣留学生は各地域が選考。他コース同様、学生コミュニティや事前・事後研修への参加を義務付け

・事業規模:

毎年新規地域を5件程度採択し、2020年までに約30地域まで支援予定。初年度(平成27年度)は7地域の事業を採択



平成26年度（第1期）派遣留学生 募集・選考結果

○応募・選考結果

申請：1,700人（221校） ⇒ 採用：323人（106校）

【コース別内訳】

- ① 自然科学系、複合・融合系人材コース
- ② 新興国コース
- ③ 世界トップレベル大学等コース
- ④ 多様性人材コース

<申請>

517人 ⇒
341人 ⇒
329人 ⇒
513人 ⇒

<採用>

159人
44人
61人
59人

○合格者内訳

<形態別在籍大学等数>

	国立大学	公立大学	私立大学	短期大学	高等 専門学校	専修学校 (専門課程)	総計
採用学生 在籍大学等数	52	13	39	0	2	0	106
採用学生数	191	21	109	0	2	0	323

<地域別人数>

地域	国数	採用学生 数
アジア	18	71
中南米	4	6
中東	2	4
アフリカ	9	13
北米	2	93
大洋州	3	14
欧州	21	122
総計	59	323

<男女別人数>

男	女
161	162

<学種別人数>

学部	大学院	高等専門 学校
201	120	2

平成27年度前期（第2期）派遣留学生 募集・選考結果

○応募・選考結果

申請：784人（173校） ⇒ 採用：256人（110校）

【コース別内訳】

- ① 自然科学系、複合・融合系人材コース
- ② 新興国コース
- ③ 世界トップレベル大学等コース
- ④ 多様性人材コース

<申請>

270人

92人

134人

288人

⇒

⇒

⇒

⇒

<採用>

119人

18人

43人

76人

○合格者内訳

<形態別在籍大学等数>

	国立大学	公立大学	私立大学	短期大学	高等 専門学校	専修学校 (専門課程)	総計
採用学生 在籍大学等数	57	11	30	2	10	0	110
採用学生数	161	19	63	2	11	0	256

<男女別人数>

男	女
131	125

<学種別人数>

学部	大学院	短大	高等専門 学校
143	100	2	11

<地域別人数>

地域	国数	採用学生 数
アジア	16	57
中南米	5	6
中東	2	2
アフリカ	2	5
北米	2	78
大洋州	3	6
欧州	16	102
総計	46	256

平成27年度前期（第3期）派遣留学生 募集・選考結果

○応募・選考結果

申請：1,290人（212校） ⇒ 採用：404人（113校）

[コース別内訳]

	<申請>	⇒	<採用>
① 自然科学系、複合・融合系人材コース	270人	⇒	119人
② 新興国コース	92人	⇒	18人
③ 世界トップレベル大学等コース	134人	⇒	43人
④ 多様性人材コース	288人	⇒	76人
⑤ 地域人材コース	103人	⇒	42人

○合格者内訳

<形態別在籍大学等数>

	国立大学	公立大学	私立大学	短期大学	高等 専門学校	専修学校 (専門課程)	総計
採用学生 在籍大学等数	52	13	36	2	8	2	113
採用学生数	253	21	118	2	8	2	404

<男女別人数>

男	女
191	213

<学種別人数>

学部	大学院	短大	高等専門 学校	専修学校
251	141	2	8	2

<地域別人数>

地域	国数	採用学生 数
アジア	16	80
中南米	4	4
中東	2	3
アフリカ	4	9
北米	2	124
大洋州	3	14
欧州	19	170
総計	50	404

第1期生の計画事例

【自然科学系、複合・融合系人材コース】

シリコンバレー“半導体製品の研究開発・技術営業 インターンシップ”を通じ、本場のプロセッサ開発 を体験”

目的

- 商業的にも成功できるプロセッサの開発を目指すため、コンピュータ・半導体分野で強いアメリカでのビジネスの興し方を体験
- シリコンバレーならではの技術開発から製品化までのフットワークの軽さの理由を知り、術を獲得する

主な内容

- シリコンバレー企業にて、主力製品の研究開発及び技術営業を自ら行う
- 先駆けて語学学校に一ヶ月通うことで技術研修を有意義なものにする



“「おもてなしのプロ」になるための、観光立国 マレーシア・シンガポールでのインターンシップ”

目的

- 2020年の東京オリンピックの頃には「おもてなしのプロ」として活躍したい
- そのために、留学では多文化共生社会での異文化理解を深め、英語コミュニケーション能力を上げ、一流のホスピタリティを学びたい

主な内容

- 現地大学経由で、ホテルでのインターンシップに参加し、多文化社会におけるホスピタリティを体験
- 高い英語能力が求められるインターンシップに合格し、シンガポールでのインターンシップに参加
- インターンの前には事前の英語研修



第1期生の計画事例

【世界トップレベルコース】

“香港大学での国際ビジネス学習及び会計コンサルティングインターンを通じて、日本の公認会計士の活躍の幅を広げたい”

目的

- 英語に苦手意識のある人が多い公認会計士業界を変え、世界で活躍できる機会を増やしたい
- 「会計×経営×英語」の3つの柱を磨き、将来会計コンサルタントとして日本企業の海外進出を支援したい

主な内容

- 様々な国から学生が集まる香港大学にて国際ビジネスを学習
- アジア中心のコンサルティング企業にてインターンシップを行い、これまで得た会計・経営の知識を活用しながら将来の目標を達成するための経験を積みたい



“フランスの演劇分析や劇団の研修を経て、自主公演を披露”

目的

- 演劇を学び、実践したい。世界から観て面白い日本を作りたい。おもしろい日本の演劇を世界へ繋ぎたい。世界と発展していく日本の演劇界を作りたい

主な内容

- パリの大学にて、演劇の演出分析や日本文化論の授業を受講し、フランス語力の向上も目指す
- 市立劇団での演劇研修や国際的演出家の稽古場での研修などに参加
- 一年間の集大成とし、自分の演出で公演を行い外国人に披露する



地域人材コースの採択地域

・採択地域事業数： **11地域**

(いわき市、栃木県、石川県、三重県、奈良市、岡山県、徳島県、香川県、熊本県、大分県、沖縄県)

<第3期生から派遣する地域>

地域名	地域事業の名称
栃木県	とちぎグローバル人材育成プログラム（上級コース）
三重県	航空宇宙産業分野の企業へ就職をめざす人材の留学支援
岡山県	おかやま若者グローバルチャレンジ応援事業
徳島県	徳島県地域グローバル人材育成事業
熊本県	『熊本と世界をつなぐ』グローバル人材育成事業
大分県	大分県地域グローバル人材育成・定着事業
沖縄県	沖縄からアジアへトビタテ留学JAPANプロジェクト

<第4期生から派遣する地域>

地域名	地域事業の名称
いわき市	トビタテ！福島浜通り再生ストーリーの主演たち
石川県	いしかわの明日の人材を育成する実践的留学プログラム
奈良市	「奈良を『開く』人材」グローバル人材育成プロジェクト
香川県	香川地域活性化グローバル人材育成プログラム

日本のみらいをつくる若者たちの留学をオールジャパンで応援する。

官民協働海外留学支援制度



166社・団体

※平成27年9月30日現在